

参考サイト

samba 2.2(samba 3.0) を使ったプリンタドライバの自動インストールが可能なサーバ構築

- <http://www.critical.ne.jp/~shacho/tips/sambaprint.html>
- smb.conf

```
[print$]
comment = printers
path = /export/printers
writeable = Yes
[global]
disable spoolss = No ( デフォルト )
use client driver = No ( デフォルト )
printer admin = root,shacho ( ドライバをインストールできるユーザ )
```

- ディレクトリ作成
 - /export/printers/W32ALPHA
 - /export/printers/W32MIPS
 - /export/printers/W32PPC
 - /export/printers/W32X86
 - /export/printers/WIN40
- lpr でプリントできるところまで、設定を済ませてください。
- samba のプリンタ共有の設定
 - /var/spool/lpd にあるプリンタ全部

```
[printers]
comment = All Printers
path = /var/spool/samba
guest account = guest
guest ok = Yes
printable = Yes
browseable = Yes
available = Yes
```

- プリンタドライバ samba インストール
 1. ドライバのインストールは、最初に smb.conf で指定している printer admin で設定した人がしてください。
 2. samba 共有の、printers ディレクトリ ? を開いて、さらにその中で ドライバを入れようとしているプリンタを、右クリックしてプロパティを開きます。
 3. ドライバをインストールするかどうか聞いてくるので、ここではいったん [No] を押します。
 4. 開いたプロパティより、Advanced のタブを選び、New Driver のボタンを押します。プリンタドライバをインストールしてください。 samba サーバへプリンタドライバがコピーされます。これで、プリンタドライバのインストールは完了です。
 5. いったん OK を押してプロパティを閉じます。
 6. Windows 98 や Me など、別のアーキテクチャのドライバも入れたい場合は再び同様にプロパティを開き、Sharing のタブを選び、Additional Drivers のボタンを押して、続けてください。
 7. ドライバをインストールしたあとは、再びプロパティを開くと、オプションや印刷の設定が可能です。
 - なお、オプションの設定などは、最初に smb.conf で指定している printer admin で設定した人がしてください。
 - ここでした設定は、各ユーザのインストール直後のデフォルトの設定となりますので 念入りにしてください (^^)。
- 余計な ? 機能のいっばいついたプリンタドライバは、自動でインストールできないことがあります。 ... 対処法
- samba サーバへインストールしたプリンタドライバが PC を再起動すると削除されてしまうことはありませんか ? ... 対処法

[samba-jp:13285] Re: プリントドライバの自動インストール

- <http://www.samba.gr.jp/ml/article/samba-jp/msg13268.html>
- [samba-2.2](#)
- administrator アカウントの追加

```
smbpasswd -a administrator
```

- smb.conf の設定

```
[global]
    printer admin = administrator
    printing = lprng
[PRINT$]
    path = /var/samba/printer
    admin users = administrator
    write list = administrator
    guest ok = Yes
```

- <http://www.samba.gr.jp/ml/article/samba-jp/msg13276.html>

RHEL で作るファイルサーバ その 3 (2005.11.19)

- http://members.jcom.home.ne.jp/jacobi/linux/diary2005_samba3.html
- [samba](#) 経由でプリントするだけであれば、印刷データは Windows 側で作成され、[samba](#) はそれをプリンタに渡すだけなので、プリンタが [Linux](#) に対応しているか等を気にする必要はないようです。
- GNOME のメニューから「プログラム」-「システム」-「プリンタ設定」を選択し、プリンタを新規作成します。
- 「プリンタタイプ」はサーバに直接つないでいる場合は「ローカルプリンタ」として接続されているデバイスを選択
- ネットワークプリンタの場合は「UNIX プリンタ」として「サーバ」の欄にプリンタのホスト名、「プリンタ」の欄に「lp」と入力します。
- ローカルプリンタでもネットワークプリンタでも、「プリンタドライバ」は「Raw プリントキュー」を選びます。
- [samba](#) がプリンタサーバとして機能するように smb.conf を書き換えます。
- せっくなのでクライアントにプリンタドライバを自動的に供給できるよう、PRINT\$ も共有設定することになります。
- 事前に /var/samba/printdrv を作成し、users グループは読み込み可、admin のアカウントから読み書き可になるようパーミッションや所有者も変更しておきます。

```
# [global] セクションに書き足す。cups を使って印刷する設定
```

```
[global]
load printers = Yes
printing = cups
printcap name = cups
```

```
# プリントスプールの設定
```

```
[printers]
path = /var/spool/samba
printer admin = @admins
create mask = 0700
guest ok = Yes
printable = Yes
browseable = No
```

```
# プリントドライバ用の共有設定
```

```
[print$]
path = /var/samba/printdrv
read only = No
browseable = Yes
guest ok = Yes
write list = @admins
printer admin = @admins
```

- ・あとは Windows クライアントに admin のアカウントでログオンしてサーバのプリンタを見に行き、ドライバをインストールすると samba サーバの PRINT\$ 共有にドライバがアップロードされ、以降、他のクライアントではわざわざプリンタドライバを探してインストールしなくても、自動的に samba サーバからドライバがインストールされるようになります。